

5月28日決算説明会 質疑応答(要約)

Q1. 自動車保険の損害率が低下しており、保険金支払額の減少が下期により大きく出ているが、何か特徴的な要因はあるのか。

- ◆ 2008年度は収益確保のために損害率の改善に注力してきた。具体的には、損害率の高い代理店に対して、契約ポートフォリオを検証・分析することにより適正引受を指導している。同様に、個別契約（契約者）についても、安全運転診断等を活用するなど、事故を発生させないための教育など事故予防措置も講じている。
- ◆ また、エコ安全ドライブコンテストを10月から半年間実施し、フリート契約者6,000社、23万台の参加をいただいた。結果として、燃費が5%弱の改善、事故発生率も20%程度減少するなど大きな成果を上げることができた。
- ◆ こうした取り組みによる成果が着実に、また下期以降により出現したことから、最終的に事故発生件数は全体で対前年比マイナス3.3%となった。

Q2. 2008年度の事業費は大幅に減少した一方、2009年度計画では増加を見込んでいるようだが、その要因について実額で説明してほしい。

- ◆ 人件費は、2008年度の832億円に対し、33億円の増加を見込んでいる。2008年度のDC移行に伴う一時的な減少要因の反動増が主因である。具体的には、退職給付信託からの返還益10億円である。このほかに、退職給付信託拠出株式の時価下落に伴う数理計算上の差異5億円、厚生年金保険料の料率引き上げによる影響、代理店研修生の採用強化による給与負担増などを見込んでいる。
- ◆ 物件費は、2008年度の687億円に対し、47億円の増加を見込んでいる。保険法対応等によるシステム改定・帳票改定などが主因で、精緻な積み上げではなく概算であるが、およそ20億円程度の費用負担を見込んでいる。このほか、日本橋ビルの減価償却費、移転費用などを織り込んでいる。

以上